

「黒神小学校の文化財探訪の取組」

1 学校名

鹿児島市立黒神小学校

2 学年・人数

4・5・6年生（計3人）

3 日時・活動場所

令和2年 5月29日（金） 令和2年 7月27日（月）

腹五社神社、永野氏宅

4 保存・活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

噴火により埋没した鳥居（ふんかによりまいぼつしたとりい） 大正3年

噴火により埋没した門柱（ふんかによりまいぼつしたもんちゅう） 大正3年

(2) 特徴

黒神小・中学校校区にある、「噴火により埋没した鳥居」、「噴火により埋没した門柱」は共に大正3年（1914）1月の桜島の大噴火に伴って埋没した腹五社神社の鳥居と永野氏宅の門柱であり、昭和33年に県の天然記念物に指定された。「埋没鳥居」は、国内はもとより国外からの観光客が多い。今年度は、毎朝清掃活動を行っていた黒神中学校が生徒数の減少に伴い休校となったので、黒神小学校の児童職員で清掃活動を行った。また、「噴火により埋没した門柱」周辺についても環境整備や清掃を行った。

5 保存会や地域との連携の具体例

令和元年度まで黒神中学校が、毎朝7時45分～8時まで腹五社神社の埋没鳥居の清掃をボランティア活動の一環として実施していた。しかし、令和2年度は生徒数の減少に伴い休校になった。また、埋没鳥居がある腹五社神社を所管している地域は、高齢化が進んでおり、毎日の清掃活動を実施することが困難な面がある。そこで、「総合的な学

習の時間」の一環として、本校で噴火により埋没した鳥居、噴火により埋没した門柱について、5月、7月に清掃活動を実施した。特に7月では地域コミュニティ協議会と連携を図り地域住民も一緒に環境整備（周辺の除草や文化財の清掃活動）を行った。

6 活用の取組の工夫した点

黒神の歴史について、地域の方から講話をしていただいた。

埋没鳥居や埋没門柱はどうしてこのようになったのだろうかについて知る。
昔の黒神の様子について、埋没鳥居がどんな存在で、黒神集落には人がどれくらい住んでいて現在と比べてどうだったか。
黒神は椿油が有名である。黒神について誇りをもって、未来へつなげていこう。

埋没鳥居の清掃活動や草木に覆われていた「噴火により埋没した門柱」の環境整備を行うことで、地域の活性化及び観光客の誘致にも貢献した。

7 取組の様子



埋没門柱の清掃



地域の先輩の話



埋没鳥居の清掃



8 参加児童・地域・教職員等の感想・意見

今から106年前の桜島大噴火はすごかったことがわかった。【児童の感想】

昔の黒神の話を聞いて、黒神には人がたくさんいて、そのころから埋没鳥居の掃除をしていた。私たちも鳥居をはじめ、ふるさとを大事にしていきたい。【児童の感想】

郷土に残る文化財を通して、郷土の先人たちが、度重なる桜島の噴火を乗り越えて、たくましく生活してきたという事実を再確認することができた。【職員の感想】

子どもたちが地域に伝わる文化財に触れることは、地域にとっても有意義なことである。今後も大切に守っていく気持ちをもっていただきたい。【地域の方から】

郷土に誇りをもって生活してほしい。【地域の方から】